

第15回 大和北道路有識者委員会

議 事 要 旨

1. 日 時 平成15年8月5日（火）14：00～16：30

2. 場 所 三井ガーデンホテル奈良 4階「飛天」

3. 出席者

委 員 長	近畿大学経営学部商学科	教授	齋藤 峻彦
委 員	京都大学大学院工学研究科	教授	飯田 恭敬
	奈良女子大学	名誉教授	近藤 公夫
	(財)元興寺文化財研究所	所長	坪井 清足
	神戸大学大学院法学研究科	教授	山下 淳
			(五十音順)

4. 議 事

①第14回有識者委員会議事要旨の確認を行いました。

○第14回有識者委員会の議事要旨の確認

②大和北道路検討のための評価の視点について事務局が説明しました。

上記に関して次のような議論がありました。

- ・ 比較検討にあたり、「期待される効果」は数値化可能であるが、「配慮すべき事項」は数値化しにくいことに留意すべき。
- ・ 期待される効果の重要な視点として、「バイパス性」、「アクセス性」の評価、更に、幹線の平面道路の渋滞緩和効果等を数値化して比較すべき。また、ピーク時オフピーク時での比較が必要である。
- ・ 災害時の代替路について、定量的な評価は困難であるが検討を考えるべき。
- ・ 景観の主要な眺望点として高円山からの眺望についても検討すべき。
- ・ 中央エリアの、奈良市南部から大和郡山市にかけて八条高架橋周辺以南の道路景観も検討すべき。
- ・ 大池や秋篠川など薬師寺方面からの、国道24号八条高架橋方向の景観についても検討を行うべき。
- ・ 景観検討におけるフォトモンタージュなどで、コンクリートを白色にしている事例が多いが、経年変化等も踏まえ色彩ならびに植栽などによる修景を検討すべき。
- ・ 環境関係において、大気質については規制強化により改善が進むと思われるが、騒音については、今後とも対策が課題になると思われる。
- ・ 配慮事項の中には、費用対効果のように数値化可能なものもあるが、ルート・構造を考える上で無視し得ない項目もあり、十分な検討が必要。

③以下の方々から意見表明をいただきました。

○奈良市 大川市長

- ・現在の供用中、事業中の箇所を最短で結ぶことを基本に、交通問題、地域の活性化などに対する効果を踏まえ検討する必要がある。
- ・国際観光都市、奈良の資源は観光であり自動車時代に即した観光振興を図るには休日・祝日を中心とする交通渋滞の解消が不可避である。
- ・高架構造については、都市の歴史的・自然的景観に及ぼす影響が大きいため、必要最小限に於いてトンネル工法を採用して頂くことは総合的に判断すれば、やむを得ないと考える。地下水位への影響を必要最小限に抑えることを条件に、中央エリア①がよいと考える。
- ・大和北道路の整備にあたっては、平成の朱雀大路として、市内の渋滞緩和をはじめ交通問題の解消に資する道路として整備願いたい。

○大和郡山市 上田市長

- ・大和北道路のルート・構造を検討するにあたり、市域の東・南地域に広域連携軸の整備、昭和工業団地への物流効率の改善、国道24号の交通渋滞の解消、幹線道路の混雑緩和などの視点から検討すべき。
- ・大和郡山市総合計画の実現、昭和工業団地への物流改善、悪化する市内の交通状況の改善等の観点から、国道24号の渋滞緩和効果が最も大きいと考えられる中央エリア①を要望する。
- ・日常生活、通勤、物流改善効果が大きいと考えられる、下三橋町から大江町付近にインターチェンジを希望する。

○奈良県 増井副知事

- ・大和北道路のルートおよびインターチェンジ位置を検討するにあたり、国道24号を挟んで広がる市街地からの交通を効率的に処理するため国道24号に近い位置の中央エリア①に大和北道路を整備し、アクセス性に優れた位置にインターチェンジを設置すべき。インターチェンジの設置にあたっては、両市の意向を踏まえ、既存の土地利用に適合した構造となるよう希望する。構造は、地下構造も併用し、国道24号の空間を極力利用することで、歴史的文化財や、眺望・歴史的景観への影響を極力抑えることができると期待できる。
- ・地下構造とした場合は、地下水への影響が少ないとされるシールド工法を採用する等の配慮が必要。

5. その他

○アンケート修正結果について事務局が説明しました。

○次回委員会について

- ・「ルート・構造の評価」及び今後とりまとめていく「大和北道路有識者委員会の提言」の骨子について議論を行う予定です。

以 上